

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571800024		
法人名	社会福祉法人 湖東会		
事業所名	グループホームハートフル		
所在地	滋賀県犬上郡多賀町中川原605番地の2		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン アクティブ・ライフクラブ ナルク滋賀福祉センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432平和堂 2階		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月行われているCW会議で、認知症指導者による認知症ワンポイントとして学ぶ時間を設け、継続的にひもときシートを活用し日々の実践に繋げている。家族会も充実しており、参加して下さる率も高い。地域との交流を大切に、地元の祭りには積極的に参加し、併設している他事業と合流して行事に参加する等、交流する機会を設けている。各ご利用者の誕生日にはご家族様を招いて一緒にお祝いも出来た。年末の家族会では家族・利用者・職員で忘年会として食事会も開催し、良好な関係を保てるように工夫している。個別ケアとして、外出できる利用者と共に喫茶店にも出向く事が出来た。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多賀町の田園地帯に犬上郡老人福祉計画により開設した広域福祉施設内の一角に当事業所がある。17,000㎡の広大な敷地には当事業所を含み特養等、9事業所が併設され職員の住宅も備えている。法人の「私達は住み慣れた地域で人としての尊厳を保ち、…幸せな人生をお送り頂き、利用者から此処が楽しく一番着くと言って頂ける応援をします」の運営方針を「家庭に近い環境の下、穏やかな毎日を暮らして頂きます。」と、職員で作った事業所理念に展開している。実践に向けて経験豊かな職員達は、いつの場面も利用者に笑顔で穏やかに接している。平均介護度3.1の利用者は職員達に見守られ趣味に興じ、屈託なく笑い、時に騒いだり、賑やかに毎日を過ごしている。家族会の連携も強く、家族揃っての全員での外食会、年末大掃除フロアのワックス掛け等、事業所行事への参加率も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、目に付く所へ貼りだし、日々のケア向上の為に意識付けを行なっている。またホームページにも掲載されている。	理念を居間に掲げ、ワーカー会議やヒヤリハット会議で理念の沿ったケアか確認し合っている。職員は利用者個々の認知症状を理解しその人に合ったケアに努め細やかなコミュニケーションで利用者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域で行われている祭事や行事に参加し、顔見知りの地域住民の方にお声掛けして頂く事が出来ている。地域のお寺で開かれるサロンにも呼んで頂く事が出来ている。	広報誌を町内の3区長に全戸配布して貰っている。ボランティアの読み聞かせを始め、大勢受け入れ繋がりを深めている。近隣に民家はなく、近所付き合いはないが認知症キャラバンメイトとして地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4か月に1回広報を作成し、苑内での様子を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、サービス内容や人員に関する報告、苑内での事故・ヒヤリハットを報告し、対策等意見を頂き参考にさせて頂いている。また苑内で作ったお味噌の試食会も行った。	民生委員、3地区の区長、行政、家族会代表等、多士済々のメンバーが出席し、行事や生活の様子、課題、地域情報等を協議している。サービス評価の報告もしている。職員は内容を議事録で共有している。	協議内容を詳細に纏めた議事録を、利用者家族に全数配布し、事業所の取り組みやヒヤリハット対応等、更なる関心と理解を得られる事を期待する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の状況報告、市町村担当者との連携・報告・相談を行なっている。待機者の状況も報告している。困りごととも都度相談している	行政とは運営推進会議の他、頻繁に面会し広報誌を届けたり、行政からの入居相談に応じている。利用者の事業所への住所変更について相談すると共に助言を得る等、密に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内で行われている身体拘束廃止研修にさんかしている。また折に触れcw会議で話し合う場を設けている。身体拘束に関するポスターも貼り出している。	日中玄関は施錠せず、職員はスピーチロックやタイムロックにも留意し、利用者の見守りに徹し穏やかな言葉掛けをしている。職員全員が毎年、身体拘束に関する研修を受講し理解に努めている。3か月毎に法人内委員会が拘束禁止のポスターを作成し、居間に掲示し意識付けしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは、直接の暴力だけに限らず、言葉や介護放棄も虐待にあたりと苑内の研修で学ぶことが出来ている。また会議等で折に触れ話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の外部研修にて制度に関する知識を習得している。制度が必要な時には、制度を活用できるように、指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に来て頂き、見学等を含めて時間をかけながら説明を行なっている。またお困りごとが無いかな尋ねる事もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・運営推進会議にて家族会の意見を報告し、反映している。家族同士の親睦も図って頂きながら、意見を聴き運営に活かしている。	家族が来訪、衣更え、一斉床ワックス掛け等で来訪時、イベント開催時、年6回の家族会を通して家族同士の親睦を図りながら、意見を聴き運営に活かしている。家族会の提案を受けて衣更えの回数を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	CW会議にて一人ひとりが意見を出し合える雰囲気を作っている。ちょっとした提案でも皆が共有出来るように伝達ノートを設け、職員全員で共有している。	管理者は職員との連携を密にする一方、ワーカー会議で「骨折した利用者のケアに於けるリスク」を提起し自由な協議で実践に向け取り組んでいる。管理者、主任が主になって年1回個別面談をして風通しの良い環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能制度を設け、定期的にスーパービジョンを行なっている。意見や、現在の職場への思いも記入してもらい、どのような状況にいるのかを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には出来る限り参加してもらい、法人外は研修内容や希望により受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬の部会には必ず参加し、意見交換を行なっている。また電話で情報交換も行っており、研修で得てきた情報を会議で共有する事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前には、事前にご家族様や以前利用されていた事業所から情報を収集している。入所前にお試しショートも利用して頂けるようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には心配事、困りごと等の聞き取りを行っており、必要時には時間を十分取れるよう配慮した上で、訪問や面会も行えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望を聞き、出来る限りの対応をしている。希望時には近隣施設の情報も提供し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	慣れ合いになりやすい環境ではあるが、役割を決め、お互いに支え合い助け合えるような言葉かけを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日には誕生日会への参加を依頼したり、家族会を通じて大掃除や食事会を開催しながら、共に支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある行きつけの美容院へ通い、近況を報告する事が出来ている。	職員は家族の来訪時、近況報告を必ず行い、気さくに歓迎し、寛いで話が弾むコーナーも設け茶菓を提供している。馴染みの人や場、仕来たり等を話題にし関係が途切れない様努めている。実家へ仏壇参りの送迎もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所された際には、歓迎会として昼食時に他利用者へ紹介させて頂いている。また職員が間に入り、互いに助け支え合う労いの気持ちが持てるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となっても連絡の取れる関係作りを行ない、適宜相談に乗れる体制は整えている。現在も退所されたご家族様がボランティアとして定期的に来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	CW会議にてひもときシートを用い、ケアへ反映出来るよう、また実践している。課題がある場合には宿題形式にし、全職員取り組むことが出来ている。	アセスメントに「ひもときシート」を活用し、日々の利用者同士の会話、仕草から思いの把握に努めている。利用者とはゆっくり話し合い、答え易い長所があるクローズドクエスションの返答から推測しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや入所前、入所後の聞き取りで得た情報を共有している。全職員が情報を共有し、ケアへ反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活面や心理面を日誌に記録し、職員全員で共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	伝達ノート、パソコンの日誌で情報共有し、CW会議で都度話し合っている。またケアプランと日々の暮らしが合致しているか、定期的にモニタリングも行っている。課題整理総括表も活用している。	介護計画は利用者と家族の意向を活かし、協議して作成している。介護計画は3カ月毎にモニタリングを実施し定期見直ししている。変化のあった時は都度見直し、何れも家族に来訪して貰い説明し承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録は詳細にパソコンに日誌として記録している。それに基づきケアを実践している。適宜必要に応じてモニタリングも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が希望された場合には柔軟に対応出来る体制は整えている。自由に面会が出来る体制も随時取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんの協力や、町のお祭りに参加し、グループホームでの生活の様子を理解して頂けるよう、地域住民と出会う機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本家族に依頼しているが、必要時には付き添い状態の説明等も行っている。また終末期には往診して貰える医師にて24時間オンコール体制を取り、医療面でも充実している。	大部分の利用者は家族の意向で協力医をかかりつけ医に変更している。受診は原則として家族が対応している。診療結果は家族と共有し利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時には個々の状態を報告し、必要時には医師と連携を取ってもらっている。また24時間オンコール体制にて電話相談も行い、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェイスシートやアセスメント情報、普段の生活記録を持参し、情報交換を行なう体制を整えている。退院前には病院側と訪問看護師とでカンファレンスを行なうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行けることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期を見て重度化対応、終末期ケアの意思確認を行なっている。現在も看取り介護は行っており、責任者の24時間オンコールも実施している。設立以来9件のみ取りケアを実施した。	重度化対応指針書を策定し入居契約時に医療連携体制加算と併せ、説明し同意書を交わしている。重度化の時点で「看取りに関する説明書」を作成し承諾を得ている。看取りケアやグリーフケアの研修を受講し、事業所は家族の協力の下、看取りケアの体制、環境を確立している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師がその都度訪問したり、電話にて指示を貰っている。またAEDを設置しており、使用方法や応急手当の研修にも参加している。緊急時のシュミレーションも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自で月に1回想定を変えて避難訓練を行なっている。法人全体での避難訓練や緊急連絡網の訓練にも参加している。	ほぼ毎月、内1回は消防署の指導の下、夜間想定し訓練を実施している。付近に住宅はないが、運営推進会議メンバーの協力を得て消火、避難訓練を実施している。敷地内に法人の職員寮があって万一の場合、強力な戦力となる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉掛けはプライバシーが損なわれないような対応を心掛けている。またその都度、職員間でさりげなく注意し合える環境となっている。	言葉掛けは、決して後ろから呼び掛けず、堅苦し過ぎず、馴れ馴れし過ぎず、時にスキンシップで敬いの気持ちをもった接遇マナーで利用者から親しみを持って貰える様、努めている。人権、尊厳の研修を受講し、ケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話せる雰囲気作りや、自己決定が出来る利用者の発言は大切にしている。自己決定が難しい利用者の気持ちを推し量り代弁したりするなどして、思いや希望を実現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間の流れは決まっているが、その日の思いや気分を大切に尊重している。買い物や行きたい所、食べたいもの等、聞き取りし、自己決定して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を選んだり、出掛ける際にはおしゃれして頂いたりしている。定期的な散髪を利用者して頂き、出掛ける事が難しい利用者さんには出張理美容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好調査のもと、代替食も提供している。また個々に合った食事形態で提供している。出来る利用者には一緒に作り、一緒に片づける事もして頂いている。味噌・らっきょう・梅干しは毎年一緒に作っている。	職員と利用者が話し、季節感のある献立を二者択一方式で決める事もある。利用者に美味しく完食して貰える様、調理に励んでいる。大半の利用者が主に後片付けを手伝っている。職員は介助しながら一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量・水分量は記録している。栄養バランスについては、自由な雰囲気を保ちつつ、野菜や食物繊維が多く摂れる工夫や、季節・地域にあった献立を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施して頂き、希望者には訪問歯科診療を受診して、アドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えが無い利用者には、ある程度時間を決めて声掛けを行ない、トイレに誘導している。過度な関わりをせず、ご自分で排せつが行なえるように見守っている。	職員は日々の介助の中で排泄パターンを把握共有し、タイミング良くさりげない声掛けでトイレに誘導し排泄の自立に向け支援している。夜間の排泄介助は尿の量で個々に応じたパッドを選択し、心地良く過して貰う様努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方薬に頼るのではなく、食物繊維や乳製品が摂取できる献立を工夫している。毎朝体操に取り組み、身体を動かす事で便秘予防・筋力保持を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け、体調不良や気分が乗らない方以外、入浴して頂いている。会話も取り入れながら入浴して頂けるよう努めている。入浴剤を使用し、視覚や嗅覚でも楽しんで頂いている。	週6日、利用者は全員入浴している。湯量、温度は個々の好みに対応し、たっぷり湯を使い、ゆっくり入浴を楽しんでいる。入浴中、現状の幸せと幼くして亡くした我が子に思いを馳せて涙する利用者も居る。ヒートショックにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、ソファや居室において各々休息して頂いている。それ以外の時間においても各々思い思いに自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で副作用・用量・用法を確認している。薬剤師とも連携できており、疑問点など尋ねる事が出来る。職員間でも情報を伝達し、服薬後の症状変化の把握にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしながら、日々の生活の中で役割を取り入れている。感謝の意を示す事で、その事が張り合いや喜びに繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員揃っての外出に行く事が難しい時には、個々で出掛けたり、敷地内にある東屋へ出向き、お茶やお菓子を頂くようにしたり、春には外でお弁当も食べ心地よい風を感じて頂いている。	広大な敷地内には東屋が2棟設備され、利用者は散策や日光浴に格好の場として気候の良い時は、弁当を作りそこで職員と一緒に楽しんでいる。日々の食材などの買い物他に地域の行事参加や季節を感じる花見、外出等、利用者が楽しみにしている外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っているお小遣いの中から個人で購入されたものは支払って頂いている。可能な利用者には出張販売に出向き、自ら品物を選んで頂き、見守りにて支払いをして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には苑内の公衆電話を使用して頂いたり、正月には年賀状を書いて頂き、出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り廊下の壁にはイベントや日頃の写真を見やすい位置に飾っている。またテレビを観ながら落ち着いて過ごせる環境を整えている。温度、湿度の管理にも注意している。トイレは車椅子での使用が出来、明るくて清潔に保っている。	居間と食堂、廊下等は、掃除を徹底して行い清潔に保っている。居間のテーブルやソファは定期的に模様替えをして利用者に新鮮な気分を味わって貰える様にしている。廊下は広く、ベンチシートを備え独りになれる配慮をしている。利用者の手作りカレンダーを飾り季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々気の合った者同士が過ごせるように位置決めしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される前には使い慣れた家具を持ちこんで頂ける様に説明している。家族からのプレゼントや写真は居室に飾り、部屋にいと家族を思い出し、気分が落ち着くような工夫をしている。	入居前の利用者宅の部屋の模様を聴き入居後、居室は起き上がり位置の関係でベッドの向きや調度品を出来る限り自宅とあまり変わらない様、工夫している。利用者は家族や連れ合いの写真を飾り、生活感のある居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を見極め、ご本人が出来る事を奪わないように支援する事を意識している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現在運営推進会議の議事録は、委員以外には公表しておらず、各御家族様に配布していない。御家族様も運営推進会議での協議内容は把握しておられないし、把握するすべがない。	運営推進会議の内容を把握して頂くべく、会議録を各御家族様に送付し、協議内容の把握をして頂ける様努力する。	2ヶ月に1回の運営推進会議の会議録を日常生活状況の報告と一緒に御家族様に送付する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。